

## まちづくり懇談会議事録

日 時：令和 3 年 11 月 25 日（木）18：30～20：57

場 所：カルチャープラザ「Eki」 多目的ホール

出席者：28 人

### 1. 開会

### 2. 町長挨拶

※配付資料確認および日程説明

### 3. 懇談

（1）第 7 次総合計画の策定について（別紙 1・2 参照）

（2）自由懇談

### 4. その他（情報提供）

（1）国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（別紙 3 参照）

（2）資料 4 についての回答

### 5. 閉会

#### 《懇談内容》

##### 【自由懇談】

町民：ゴミの分別の関係について、令和 6 年 4 月から実施とあります。令和 5 年度は説明会を開催し周知という計画。この説明は、分別、ゴミの出し方が変わることになるので、説明は本当に細かく丁寧にやっていかなければなかなか飲み込めないと思います。町内会や自治会、それから老人会や婦人サークルなど、細かくやっていただくためには、1 年間で間に合うのか。以前、ゴミの分別方法が大きく変わった時は、もっと時間をかけて進めていただいたような気がします。それと分別方法のハンドブックのようなものも出していただき、折に触れてポイントも出していただいた。それでもしっかりできない部分があり本当に大変と思うので、細かく手をかけていただきたいという要望です。それともう一つ、ゴミの量を減らすということで、生ゴミは堆肥化して家庭菜園で使うとか、コンポストの活用をしている方が多いんじゃないかと思う。以前にコンポストを買う場合、半額補助などの制度があったかと。そういったものを復活していただくとか。私も活用しているのですけれど、ここ数年、冬は雪を除けて入れるようにして、1 回も生ゴミを出していません。そういったあたりで補助金などを出していただくことも考えていただきたいなという要望です。

環境政策課長：ゴミの分別の関係、令和 6 年 4 月からの焼却に向けての説明ということで、今回この組合を構成している関係で、まだ耕地等々の進捗もあります。そういった中で限られた時間にはなるのですが、令和 5 年については、きめ細かく分かりやすい冊子等の工

夫をして、どのような形になるかということを町民の方々には情報提供した中で、ご理解を深めていけたらなと考えています。また、生ゴミの対応ということですが、以前堆肥化の容器設置補助をやっておりました。それで今、栗肥土を作成している状況ではありますけれども、今回の焼却に伴いまして、生ゴミも焼却にまわります。そういったところで提案いただいたように、家庭用の以前実施したようなコンポストの補助等についても検討していければというふうに考えております。

町民：新しい施設になった場合、ゴミの分別は今よりも簡単になるのか、もう少し複雑になるのか、同じなのかなだけ教えてください。

環境政策課長：生ゴミは今は堆肥化の関係で分別しておりますが、これが焼却に回るということで、名称は可燃物・不燃物にするか、燃やせるゴミ・燃やせないゴミにするか未定ですが、一応、生ゴミと燃えるゴミというのが、今で言う炭にできるゴミが同じような形になると思います。あと実際に燃える、燃えないの精査をするのと、そのプラスチックの分別の方法が、政府もプラマークがついている容器を開けて、硬質プラはその他にしていますが、それも同じように再生に回るプラスチックと同じ形になるかもしれませんので、そのことが明確に決まり次第、精査して分かりやすいように簡素化できればと思っているのですけれども、なるべくゴミは出さないという基本的な考え方がありますので、資源物についてはこれまで同様に分別をしていかなければならないというふうに考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

町長：今、町民の皆さんに購入していただいている栗肥土。堆肥化施設で作っているあの肥料ですが、堆肥化施設はこの広域処理施設の稼働に伴って廃止する方向でありますので、令和6年4月以降に栗肥土の販売も取りやめる予定になっております。この堆肥化施設は桜山地区にあるんですが、非常に臭気が強く、桜山地区の町民の皆さんに多大なご迷惑をおかけしてきた施設であります。今回の広域の焼却施設に伴って、その施設を廃止することにしておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

町民：細かいことなのですが、生ゴミを消却するとなるとかなり水分を含んだりしております。家庭の中で何か工夫をするようなことはありますか。

環境政策課長：おっしゃるとおり水分があると重量が重くなります。組合の構成で、そのゴミの処理料負担にも反映されるということなのですが、その辺の対策についてはいろいろ考えたい。三角コーナーのようなものがあって、今、試験的な商品を見ているんですけど、変形して、押すと水が抜けるようなものの推進や、家庭でコンポストなど生ゴミを減らすということも考えていかなければならないということで、これから引き続き検討していきたいと考えています。

町民：錦まちづくり協議会は、今は防災を中心に活動しておりますが、10区、北区、西区、農事、かつては雇用促進住宅というものがありました。最近、20戸から30戸、段々増えてきており、今の戸数でいえば、農事さん、それから北区さんよりも戸数が多くなっています。そこはまだ自治会組織（町内会）がありません。それで支援者の方に助言いただき、周りの町内会でぜひ、町内会組織を立ち上げてくださいということを札幌の事務局を通じて連絡させていただきました。それには冬の除雪もあり、実施している業者が雪を交差点に出してきて、たまたま排雪する時期に事故はなかったんですけど、ぶつかる機会、何回も地区の町内会の人が見受けていました。そんな状況でゴミボックスも毎週入ってきておりますし、雇用促進住宅はもっと中に入っています。それから防犯協議会があ

ったのですが、あそこがなくなるという情報があり、西区と 10 区で防犯灯を一つずつ、町内が暗いということで受けております。それでいろんな形で、町内会と錦まちづくり協議会、あと一つが入れば、カルチャープラザ「Eki」の避難場所も通知できますし、それぞれその町内会に参加してくださいという取り組みはしてるんですけど、あと何か行政の方から投げかける特策があれば教えていただきたいなと思います。先日、要望書という形で建設課さんのところに行ったんですけども、その町計画の中で、これから始まる錦まちづくりの再開発のことを町長もおっしゃってましたけれども、新橋が終わってからはすごい楽しみにしている部分なんですけれども、1 点、錦地区に幼保一体型のめぐみこども園があります。そこは今歩道がなく、ガードパイプで歩道柵が作られています。冬になるとそれが外されます。そうすると歩道の位置が全然分かりません。それと標識、それから要望書の防犯灯。それから一時停止。ちょうど角に家のございまして、死角が見えないということで要望させていただきました。それは緊急を要するという形で、子ども達が安全に通学できるようにしていただきたい。4 町内会の連名で出させていただきました。そんなわけで、なんとかよろしくお願いします。それからもう 1 点、これはもう体育団体の関係で要望というか、これから第 7 次総合計画が始まりますけれども、教育の中で主な課題とありますが、この中で学校教育ばかりじゃなくて、例えばスポーツ少年団、それから一般の団体の活動、施設整備とかそれから指導者に対しての育成とかそういう部分では、前は入ってたと思いますけれども、それがちょっと無いのは寂しいかなと思います。今子ども達が少なくなってきた中で、例えば少年団野球チームが全国に行ったり、民謡で全国一になるとか、それからゴルフで女子プロが誕生するとか、陰日向で指導者が頑張っていると思います。あと例えば文化の方でかるたですけども、3 年前に全道 1 位。角田のチームも含めて 1, 2, 3 位を独占した時期もあります。ただこのコロナ禍の中で、2 年間は残念ながらないですけど、その後輩たちも非常に 2 連覇 3 連覇できるような実力の人もいまして、陰日向でなんとか高齢にもかかわらず頑張っています。そういう意味では施設だとか、たとえば指導者の育成まで行かなくても、何らかの形で協力していただければ、非常に助かると思います。やはり希望ある老人や子ども達を含めて 65 歳でも栗山テニスコートで、今でも 60 から 80 歳の人があそこの施設を使ってやっています。施設の整備も含めて、よろしくお願いしますと思います。

建設総括：昨日の朝、まちづくり協議会の方で建設課に来られまして、錦地区の要望書ということで数件案件がありましたけれども、その中で今おっしゃられた、めぐみこども園の前の道路の関係。ここについては、こども園ができた時、移転した時に子どもが通園するということで、歩道がなかったことから、すぐに歩道の設置はできなかったのも、簡易的にガードパイプ、すぐ移動ができるようなものでは対応しておりました。冬になりますと除雪の関係で、そのまま残しておくとは今度は通行する車が片方から行きますと、交差がなくなるような状態になりますので、冬にはそのガードパイプを外させていただいています。確かに元々歩道のないところですので、車が交差しているところに子ども達、大人もそうですけれども、歩くということになると、相当気をつけて歩いていただかないとならないのかなという状況は把握していますし、まちづくり協議会の皆さんの声というのも充分に分かっているつもりであります。ただすぐ工事ができるかというと、今説明したように、歩道を作るには、今の道路の敷地では狭いですから、当然用地の取得もしていかなくやなりませんし、260m ぐらいありますよということでしたけれども、ここをすぐ工

事するということになりますと、それだけの費用もかかりますので、財政的なことを言ってしまうとどうしようもないんですが、いろんな町内会・自治会からもたくさん要望が来ておりますので、優先順位を考えながら早急に改善できるように検討してまいりたいと思います。

まちづくり総括：町内会の関係で先ほどお話をいただきました。以前もお話いただいておりますが、なかなか難しい面もあるんですけれども、行政としても、札幌の事務所の方と連絡を取らせていただいて、なんとかいい方向でお互い相談させていただきながら、対応させていただきたいと思います。今後また連絡を取らせていただきますので、よろしくお願い致します。

教育長：人材育成の部分については、生涯教育という立場で我々としては考えているところです。ここには出ていませんが、今は小学生中学生を中心としたリーダー会というものから、様々な観点で、町民講座などを今まで推進してきました。その中で、今後とも当然生涯教育は教育委員会の管轄として残りますので、できる範囲ではありますけれども、やっていきたいなと思います。今意見として言われたことについては、ごもっともな部分もたくさんあります。そういったものも町内会、育成会と連携を図りながら、今後進めていきたいなと思います。また、最後にかかるたの件のお話があったかと思います。全道大会の方については、中止になっているという話を聞かせていただいておりますが、栗山においては今はコロナ対策のレベル 1 という中で推進させていただいて、学校にも指導しているところです。その範囲内でしっかりと感染対策を取りながらやればできるのではないかと、今育成会の会長と話を進めているところです。どうやったら今の段階でもできるのかということを探しながら、やはり子ども達の活動を将来に向けて少しでも前進できるように、その場その場で考えながら、推進してまいりたいと考えています。

町民：ありがとうございます。都市整備関係、計画をもってやられるんだなと実感しました。ただ 1 点だけ、しつこいようですが、本当に冬の通学路、歩道が無くて暗いことがあります。それでできるところからとりあえずやっていただきたい。例えば、暗いところですから照明灯・標識をつけるとか、やはり何か手立てをしないと、何かあった時には、やはり今の時代ですから傍観者という形になると思うので、本当に暗くて危険だなというのが分かると思いますけれど、そう緊急措置ではないですが、そこを何とかお願いしたいなと思います。

町民：雨煙別川の遊歩道、今回、11 月いっぱいできていますが、あそこの片面のところ、柳の木を伐採して、伐採したままの状態になっていますが、雨が降って水が増えれば、当然あれは流れると私は思うのですが、その伐採したものは流れてもいいのか、それともあれを綺麗に片付けてくれるのか、そのところはお答えできますか。

建設総括：雨煙別川については、北海道の管理になりますので、詳細については私どもでは分かりませんが、通常柳の木などを切った場合については、当然そのままにしておくと、またそこにいろんなものが絡まったり、綺麗に流れていくわけではないので、通常は切った後に回収すると思います。私たちも少し現場を見させていただいて、道の管理をしているのが長沼出張所になりますので、こちらの方に連絡してみたいと思います。

町民：第 7 次総合計画の 4 番、ケアラー支援の推進なのですが、これはぜひやってほしいと思うんですが、今、町の方でケアラーというのは潜在的にどのくらいいるか把握しているのか。それとケアラーはすごく大変なのですが、今後社会福祉協議会などが中心になって

やると思うのですが、民生委員、町内会、あと民間の介護施設、この辺の繋がりというのは何か欠けているように思われます。社会福祉協議会は協議会でやっていて、民生委員は民生委員でやっていて、町内会は町内会でやっていて、その繋がりが全然見えてこないのです。ですからもし今後やるとしたら、箱物ばかりきちんとするんじゃなくて、中身の充実。それをきちんとやってほしいなと思っています。それともう1点。若者の定住の話なのですが、やはりどこの町でも大変な問題だと思います。それと、やはり今までずっとやってきた企業誘致。やはり働く場所がないと若者は集まりません。ですから企業誘致をきちんと力を入れてやるのが基本じゃないかなと思います。色々町的にはやっているんですが、やはり単年度ごとの勝負ではなくて10年を見据えた企業誘致。そして今ある既存の企業もきちんと推進していく。やはり工業団地の中、いなくなっている企業もあるみたいなので、地元の今活躍している企業にもう少しきちんとした支援をするのが大事じゃないかなと思います。

福祉総括：町内にどれぐらいのケアラーがいるのかということですが、昨年のアンケートの結果から申し上げますと、大体町内の19%にケアラーがいますとなっています。単純に6000世帯と仮定しますと、約1000世帯です。その他に「気遣いケアラー」という方々もいます。実際に介護しているわけではないですが、遠くにいる高齢の両親を気にかけている人。そういう方々が15%、合わせて34%。3世帯中1世帯にケアラーがいるだろうと言われています。大変なケアラーがいる場合もありますし、ケアの状況によっては、支援が必要ない方もいらっしゃるのかなと思います。それらを含めて支援をしていかなきゃならないのかなと思っています。今回ケアラー支援条例を作ったのは、栗山町がまちを上げて、介護ケアラーの方を孤立させないように取り組みましようということです。今、社会福祉協議会、民生委員の方、町内会に色々なことをやっていただいています。特に見守り活動は町内会でもやっていただいていますし、民生委員さんでもやっていただいています。そういったことも今後、民生委員さんまたは町内会の方へ話しかけて、こういうことをしていきたいということを相談しながらやっていけないのかなと思っています。その大元となるのは、やはり町が主導しながら社会福祉協議会が中心になってやっていただく。今後のケアラー支援の活動の拠点となる場所を1つ設定していきたいなと考えています。今後できれば「サンタの笑顔」という場所があるんですが、そこを中心に事業展開していきたいなと思っています。やはり町民の皆さんも、町にいるケアラー、隣近所にケアラーがいたら声かけなどをしていただいて、孤立などしないように、社会全体で支えるということも気にかけて伝えたいなと思っています。

ブランド推進課長：皆さんご存知の通り、旭台の方に工業団地があります。今30近い企業が既に入られています。最近、国道沿いにエヌグリッツが、来年の創業に向けて準備を進めています。取り組みとしては、金融機関などから色々な情報をいただきながら、商工会議所を含めて、企業誘致の取り組みを進めているところですが、1、2年ですぐに企業が来てくれることはありませんので、少し長いスパンで色々な取り組みをしています。また、企業誘致に関する優遇制度ですが、以前は例えば従業員10人を10年以上雇用しなければならぬ、取得価格はこの金額以上という基準がありましたが、それを細分化して、従業員は新たに2人、取得価格もこの金額、という形で細分化して、企業が進出しやすいよう、できるだけ優遇できるような形で、補助制度を見直して色々な企業誘致の活動を行っている最中です。昨今、新型コロナウイルスの関係で中々売り込みの活動ができていな

い状況ですけど、今後はウィズコロナも含めた中で、企業誘致のあり方というのをまた新たな取り組みとして考えていきたい。検討はしているんですけど、引き続き活動は行っていくつもりですのでよろしくお願いいたします。

町長：今現在の工業団地の進出状況とか、色々な企業立地についての支援策を改善しながら進んできている内容について説明しました。企業誘致というのは簡単に話がまとまるということがないですから、やはり長い企業誘致活動の積み重ねの中で、栗山町に進出していただける企業が、1、2 社ほど出てきたものですから、少しお話ししたいと思います。一つがブランド推進課長からも話があった、江別製粉の子会社、エヌグリッツがやるトウモロコシの加工をするところです。栗山町産のトウモロコシと、由仁町産のトウモロコシが中心となって、そこに持ち込んで加工することで、お菓子の原料などの販路を使って、製造販売していくというのが一つの流れになっています。この栗山町の農業と工業が結びつくというのは初めての展開です。僕も期待をしている事業・企業です。農協とも話をする機会があって、今栗山のトウモロコシを作っている農家が6軒しかないんです。由仁町が10軒。それを少しずつ増やして行って、そこに持ってくる量を増やしていく長期的な計画も立てているようですので、そこは栗山町の中心となる企業となっていきたいんじゃないかなと考えています。また、工業団地ではないんですけど、参考までに情報提供したいと思います。懸案となっていました旧継立中学校跡地の活用で、まだ正式には決定されていないですが、これから最終的に細かい詰めをして、議会の承認をいただいてからになります。大阪の企業が旧継立中学校の跡地に入っていただくことに決まりました。内容としては、グラウンドを使ったキャンプ場や、校舎を使ったレンタルオフィスや地域交流の場など、幅広い事業展開を考えている企業で、そういう展開の中で南部地域の賑わいの中心となるような施設として生まれ変わっていくのかなと期待しています。これから正式な手続きを踏んで、来年の夏頃に正式オープンと聞いていますので、それもまた栗山町の企業誘致の一つと思っています。また、滝下地区、夕張と境の地域で、一番栗山の南の地区、そこに前に養豚場があったんですが、そこが閉鎖されていまして、その跡地を活用して、イワタニ・ケンボローという中堅企業がAIセンターという、人工知能を活用したセンターを作っています。内容としては、種豚、人工授精液を製造販売するという内容になっています。しっかりとした建物の中で授精液を作っていくということです。約80頭の種豚を飼育するというのですが、匂いなどを全く外に漏れないような形になっていますので、滝下地区の皆さんも非常に期待していると聞いています。それが来月12月に本格稼働するということです。それともう一つ、御園地区の山間に今は閉鎖になっている新札幌のワシントンゴルフクラブがありました。そこが、最近フューチャーが運営していたんですけど、今は閉鎖になっていまして、そこを大樹ホールディングスという上場企業ですが、そこが入って現地法人を作り、ゴルフ場を再開する整備を進めています。私も現地に行ってきましたが、草木が生えてひどい状態でしたが、それを1年かけて整備し、すぐにでもゴルフができるような状況まで回復していました。さらに、今はクラブハウスを開始している最中ということで、もう少し時間がかかるということです。再来年の夏ぐらいには本格オープンしたいという話を聞いています。27ホールあったのですが、18ホールに縮小して、そのうち9ホールに色々なリゾート施設などを整理していきたいという構想を持っているということで、そこも御園地区の方と連携して、地域の賑わいの拠点となっていきたいと思っています。このように、いくつか良い話題が出

て参りました。ご指摘のとおり、若者定住を進めていくためには、若い方が働ける場所を企業誘致を通じて作っていく必要があると考えていますので、地道な活動にはなりますが、私も東京や大阪に行って、商工会議所に 100 社ほどの企業を集めていただいて、そこで栗山町の魅力などについてお話させていただいていますが、またそれがこの先 1 つでも 2 つでも企業誘致や、若い方が働く場の確保につながるように、しっかりやっていきます。

町民：第 7 次総合計画の説明を前回単体で受けたものですから、その時にぜひ反映してほしいなと思ったので今日も参加したんですが、実際はこの資料作りも含めて、町長の懇談会は 23 回目ですか。夜、私ども町民の参加者以上の役場職員の皆さんが参加していただいて、この膨大な仕事をやっていることに感謝したいと思います。一方では、前回もそうだったんですが、説明受けてこういうふうにしても、どうしても現実に進めることと、僕たちのように今実際に生活している方だとか、身近な事の話になりますから、これから将来どういう町にしていくのかという話には中々ならないんです。本当はそういう話をきちんとすべきだというふうに思っています。この第 7 次総合計画の最終年度は 2030 年。2030 年と言ったら 9 年後。私はきっと 2030 年には生きてるか死んでるかわからないけど、今こそやらないきゃならない。歳だから話をしているんですよ。ですから、今の話もしたいのですが、これからどんな町にしていくかという話をしなきゃだめだと思っています。ですからこういう総合計画の話を毎回のように来ても、どうしてもそういう話にならない。今日ここで喋ったのも、それぞれの課の人が出てきて、みんな説明して答えを出してくれます。本当は、そういうことがあったら、大変ですが役場に行ったらみんな解決してくれるような行政と町民の関係が作られたんだと感じています。今日質問したり回答してくれたことは、良いという前提で話していますが、これから先の事を考えた時に、将来人口はどうなるのか。僕らが死んだ後、いくら若者定住で人口誘致しても、無理なことは現実としてあります。ですから、その点で言えば、もし人口が減って、およそ推定人口が、ぼくは九州に行って昭和 35 年に「8 千人のまちづくり」という研修に行ったことがあり、その地域は今でも人口 8800 人です。九州大学の医学部が、そこで町民の健康チェックをする素晴らしいまちです。歴史文化も自然も身近な産業も大事にする町でした。すごい町長だなと思って、その本は僕もバイブルにしてる。今、栗山町で、特に空知管内、僕は最近高速を通らないので下をずっと走っていくんですが、もう壊滅的です。たくさんあった学校が、小中 1 校ずつになって。そして色々な、ここにこういうものがあつた、ここにこういう店があつた、ここに食堂があつた、ここに交番があつたというところがほとんどなくなっている中で、僕は栗山町、今、行政だけに言うんじゃないくて、町民自らが協力しながら町を作っていくという伝統があると思う。まだそういう人たちがいると僕は思っています。それは栗山の力ですし、栗山の将来の子どもたちに、できるだけいい町を残してやろうと思って考えている人の多い町だと僕は思っています。ですから、こう論議をして今日でも教育福祉に関すること、生活環境ゴミやなんかのことを話したら町の経済はどうするのかという風になっていったら、この懇談会として同じ形式じゃなくて、この地区とここには、今日は教育福祉、今日は産業の事について、今日は生活環境について、という形の、将来設計をしていくと、こんなにたくさんの夜間の、商店街の皆さんにご足労をかけないで済むし、結局その方が煮詰まるような気もするので、今回は大変ご足労願ったんですが、次回からは僕は、改善を加えてくれていいんじゃないかなと思います。自

治基本条例とか、総合計画があるから、それをしっかりと執行しようという姿勢でこういうふうに行われているんだろうということは分かった上で言っています。ですが、そうしてほしいと思います。議会もそうです。議員さんが何人か見られていますけれど、議員さんたちがたくさんいても、そこに参加しているのが一人とかそういう風になっています。そここのところは、もうちょっと議会と行政が上手にやって、町民ができるだけ参加して、これから町をどうするのかという話をしてほしいな、そういうことができたらいいかなどと思っています。国道も4車線化にして、それはすごく良いことです。でも高速ができて、良い道路ができれば町は壊れていく。通過するだけになるから当たり前です。だからこそ栗山の町をこれからどうするのかということが僕は大事だと思っています。そういう意味で道路を作ることが悪いという発言ではありません。たとえば、第7次総合計画での栗山赤十字病院の問題。僕は最期は栗山赤十字病院に来て、町民として命を全うしたいと思っています。介護と医療と将来設計ができて、最後は栗山で自分も命を全うできる。そういう病院にしてほしいなと期待しています。それから駅南交流拠点施設について、町民は正直言って皆心配しています。大丈夫なのか、これで栗山の町が活性化できるのか。心配するということは逆に返せば、本当は町民も手伝いながらこれを成功させたいという風に変えていってほしいと思います。今のまま進むと、例えば「地域おこし協力隊が中心となった新たな法人組織の設立を想定」と書いてあり、それで構わないと思いますが、やはり昔から栗山にいた方が、地域おこし協力隊の人と一緒にやっていく法人づくりに、どういう形になっていくか分からないですが、そこに参加していく形にしていけないといけません。地域おこし協力隊の方は3年間で、それを作るということは、どんなに優秀な方でもやはり難しいと思います。そして、例えば駅前再開発で、20数年前、100億円をかけた駅前再開発をやりました。でもなかなか後継者ができない、いないということで今の形になっています。もう一回その事を細やかにやりながら、本当にこれからどうするのかということを町民みんなで、単に役場がそうやるからそれについてどうこうではなくて、私たち町民が何を手伝っていけるんだろう。どういう風にしたらそういう良い町にできるんだろうということを今後やっていけるような、もっと町民が参加して作っていくことを、ぜひ働きかけながら計画に織り込んでいってほしいと思います。ちょっとピント外れなことを言ったかもしれませんが、最初に言いました2030年ということを考えたら、私は後9年、10年栗山でどう生きてくのかということを自分では考えながら発言しているというふうに思っています。そういう風に思う栗山の町民の方はまだまだいらっしゃると思います。

町長：今、私自身は我々に対するエールを送ってくれたのかなと、そういうふう感じて今の説明聞いていましたので、色々と肝に銘じる部分もあるかと思いますが、なんとかやっていきたいと思っています。この懇談会は今こういう形でやっていますが、この他に色々なサークルごとの懇談会や、町民の皆さんがご意見を出しやすい環境づくりをすること。そして、その町民の皆さんがそういう機会を作っていくことを、自治基本条例でも行政の責務として設けていますので、色々な懇談会の形を取りながらしっかりと意見を吸い上げ、本当に小さなご意見だとしてもその意見に耳を傾けていく、そういうことの積み重ねが私はすごく大事ななことかと思っています。今のご提言も含めて色々な懇談会のやり方もあろうかと思いますが、工夫をしていきたいと思っています。やはり色々な分野のご意見、ご質問が出ますが、僕はそれでもいいと思っています。もう少し厳しい問いというか、



議論をする時が必ず来ると思います。9年後の2030年を見据えた今回の第7次総合計画ですので、その中で色々な事業展開の議論は当然必要になってくると思います。その先に、人口11,300人、そして2030年には10,000人を切るぐらいまでいくと、これからどんどん人口減少に歯止めをかけるように、町民の皆さんと力を合わせて、栗山駅南交流拠点施設も、栗山赤十字病院も一生懸命頑張っていきたいと思います。でもいずれ、限界点は来ると思います。それが8,000人なのか7,000人なのか分かりませんが、我々行政の役割として、一歩先に先見性を持った目を持って、7,000人になったことを想定して、今何をしなければならないか、その議論はしっかりしなければならない。ですから課題はたくさんあると思います。今は公共施設が栗山にたくさんありますが、11,300人でなんとか維持しているものが、7,000人になった時に維持できるのかと言ったら、それは不可能です。ですからそうなった時に、何を削って、何を生かしていくか。そういう厳しい議論をしなきゃならない時はこの先もありますので、やはりその時々町民の皆さんに、そういった厳しい選択になるかどうか分かりませんが、そういう課題を投げかけて、そして意見を聞くという場面を作っていきたい。今回のまちづくり懇談会は、この8年間、第7次総合計画の中で、どういう事業、どういう政策がいいか聞きたいというのが主目的ですので、私が今言った先を見据えた、厳しい判断を求める議論についてはまた別の機会にできればいいかなと思っています。

町民：将来のことを考えるなら、この推計で、人口と経済がこういう状況で何とか行くかと。多分こうなったら、何かしようという時に必ずお金がないことが先につきます。これからまちづくりをする時に、お金がないのは分かっています。町民も分かっています。でもお金がないのが先につくんじゃないくて、一緒に夢を見たり、一緒に何か作っていく時に、自分たちもこうやってするから、うちの自治区としてはこうやってするからこういうふうにしようよ、というような論議ができるようお願いしたい。それを高めていかないと町は駄目になります。ですから、お金がないんだよと言うだけでなく、少しお金はかかるけどもこういうふうにするという風にしてほしい。担当職員の皆さんが苦労されていると僕は思います。そういう状況に町はあると思うから。ですから、僕はこの仕事を進めていくのは、役場の中堅やこれから中堅になってくる人たちがこの仕事を担うわけなので、それは町長はじめ若いころにそれだけ苦労して仕事したということを僕は覚えていますから、だから今そうやって頑張っている人たちに、やっぱり僕は先輩として褒めてあげたいなという風に思いますし、頑張ってるなということは声をかけてやっぱりみんなが、役場職員も僕ら町民も諦めないで、一緒になってやっていくような信頼関係が、僕は非常に重要な気がしています。僕は色々なところで、役場職員の皆さんに力を貸してもらっているのですが、休みの日も出てきている方が頑張るから成り立っているんだということを僕は一町民として町の人に知らせていきたいなと思いますし、そういう努力があるから今がある。それと第6次総合計画はこの間やったような気がします。第6次総合計画が終わった途端に第7次総合計画に入るから、ずっと計画を立てているような感じがします。もう少し何とかならないか。ずっとそういう計画を作って、確かに必要だと分かりますが、もう少し計画を立てないで1年間はしっかり仕事するような感じにならないかなと思っています。あの3年計画で最初に来て町政を分析して、2年目になったら頑張って仕事して、3年目になったら次に何か残して転期していくような感じの、総合計画づくりのような感じにならないか。ずっとそれをやっていくのは、その担当の役場職員だという気が僕

はするので、間違ってるかもしれないけれど、お互いに頑張らせてもらうつもりで話をさせてもらいました。

町長：ありがとうございます。私どもの職員のこと、色々と応援をしていただいて、そして褒めていただいて、自分の職場の職員のことをそう言っていただいてありがたいなと思いますし、感謝しています。お金がないという話もありましたが、今ここに来ている職員のほとんどは平成 11 年から 10 年以上厳しい行財政改革に取り組んだメンバーです。ですからそこが基本にあります。お金の話もありますが、今は決してお金がないから初めからしないということではなくて、お金をかけないようにしながら、何とかそれを実現に持っていくことができないか、そして町民の皆さんのご協力をいただきながら、なんとか将来を見据えた視点で物事を進めようとしていますので、決してお金が無いからとか、そういうことではありません。今いろいろご提言があったように、町民の皆さんと協力しながらいいものを作っていければと思っています。色々ありましたが、職員の叡智を結集し、そして町民の皆さんのお力添えをいただきながら、今日ご提案した色々な大きな事業も、小さな事業も色々ありますが、一つずつ次の世代に繋げていけるように、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

町民：1 番私の関心があったのは、栗山駅南交流拠点施設についてだったんですが、あまりにも情報が少なく、頭の中が混乱しています。一体何を狙っているのかというのが分からなくて、なぜこの赤レンガに固執したのか。すごくお金がかかって改築して、それほど見栄えとか他のレンガがやっているのとも違うし、周りの景色がレンガに合っているわけでもないというのが私の率直な感想でした。インターネットでレンガ倉庫とまちづくりというのを調べたら、10 年ほど前に総務省からこの提案がなされていて、いくつかの町がやっているというのが分かって、栗山と同じ手法を取っていたんです。そこで交流人口を増やして、関係人口から定着率に結び付けようというのがもう約 10 年以上前からやられているというのが分かって、栗山もこれで行くのかと思ったんですが、私は栗山に来て 18 年になりますが、栗山は割と交流人口はある町だと思っていました。その交流人口ではだめで、町の中まで引っ張る。内容が、多目的ホール・施設の中の情報案内・まちなかレストラン。確かグルメという提案が最初にされていたと思う。グルメとものづくりは資料に見つけたので、それですごく期待していたらこういう感じのグルメかと思いました。確かに食べ物だと思ったんですけども、ここを拠点にせず関係人口じゃなく、多分、交流人口から始まると思うんですけど、今までと違いどういう人たちを集めようとしているのか。関係人口と考えているのは、今でも栗山に関係人口でいる人は役場の中にもいっぱいいると思うのですが、でもその人たちが定住に結びつかないのは何故なのか。その人たちから攻めないのかなと思い、その交流人口はどういう人たちを集め、交流人口からどんな形の関係人口をイメージしているのかとかというのが、全然伝わってこない。どんな人を定着させようとしているのか。でもこの資料を見たら、今来ている若い人達をなんとか繋ぎとめようというための施設なのかと考えます。その辺が全然分からない。そしてこれから町民の皆さんにも協力をお願いしますというのは、色々なところに出ているんですけども、私のような人はどんな協力ができるのか、それとも私たちの協力はなくて、何か特別な技術を持った人とか、農業関係だとかそういう人たちの協力をことを強く言っているのか、後継者がいない商店街の人たちなど、跡継ぎを何とかしてくれという人たちを繋いでやろうとしているのか、具体的なところをもっと知らせてほしい。

それでないと私の周りの人たちは「くりふと」って何、何をやろうとしているのか、お金だけ使うのではないか、私は知らない、というような意見だったんです。それとせつかくこういうことをやるんだから、何か静かな曲が流れて、コーヒーでも飲んでという場所になるのか。それならまだいいけれど、移動図書館のようになるのかと思ったり、居心地の良い町のたまり場というように書いてあったので、そんなことを想像していたら、この間この施設完成予想図が出て、中学校の理科室かなと思った。どうせお金をかけて大々的にやるならば、町の人が夢を持って、早くできあがらないか、どんなところだろうとなるような提示の仕方をしてもらいたい。ファイターズのボールパークは北海道中の人ワクワクしてできあがるのを見えていますので、そんな夢を与えてほしいなと思いました。皆さんの頭にはきっとイメージができていると思うんですけど、それを見せてほしいです。

町長：この施設を作る最初の発端は、栗山駅前商店街は今衰退していますが、あそこをいかに賑わいのある昔の商店街のようなどころに戻していくか、中心市街地の活性化に結び付けていくかということで、交流人口や関係人口も含めて、そのメインになる施設を町の課題解決の施設にしていくというのが最初の目的です。ですから今色々分かりづらいつつ情報が伝わってこないというお話がありました。そこは私どもも真摯に受け止めます。情報発信量が少なかったかなと思います。なぜこの施設をこれからメインとして作るのかというところをこれからしっかりと情報発信させていただきたいと思ひますし、この施設は今行政の事業として、国の補助金を受けてやっていますが、町民の皆さんと一緒にこの施設を育てていきたいと思っています。最初にできて、そしてそれがそのまま続くということではなくて、成長していく施設にしていきたいと思っていますので、色々な町民の方が関わっていただけるような事業展開を組み立てていきたいと思っていますので、また色々な情報を出していきたいと思っています。

町民：私たちも楽しみにしていたのですが、どういう風に仕上がるのか、もう建設の音などが聞こえてくるんですけど、実際に見に行ってもどういう行動も取れない。商店街の中に確かに皆さん場所を作って、話を聞きに来てください、話をできるようにしましたと言ってくさるんですけど、なかなか入っていけない。せつかく商店街のほか、新町に商店がまだありますから、どれだけ残ろうとしているのか、どうやったら引き留められるのか、どうやったら継続していけるのか、そういうことも含めてほしい。商店街は本当に潰れそうで、なかなか仲間内で力を合わせてということになりにくいです。そんな中で、この建物の内容を見ても、私はどう関われるのか、できあがるまでに話し合いをしたらいいと思う。できあがった建物はただの公共施設ではないかと思ってしまう。町民にとってはもっと意見を言いたい、それを一生懸命聞こうとしてくださっている二度とないチャンスです。ですから数人は意見を言おう、それだけ本当にこうあってほしい、という立派な意見があるのだったら、耳に入れるようにしましうと声はかけています。でもこの期間中、どれだけ詳しく本音で、ここはどうなっているんだろう、ここをこうしてほしい、本当はこうなったらいいんじゃないかと薄々は思っているんです。FM ラジオについても、これから数年かかると時代が大きく変わります。ネットを見ても、動画を見てもどれだけ時代が変わってしまっているのかがよくわかります。その中でスマートフォンを使えない、携帯電話がこれからなくなって iPhone を使う、どうしていいか分からない、でも公的にそういうものを使わないと、申請もできず話も聞けない。私も含めた町民は、誰に相談していいか、使い方も分からない。この駅前拠点施設にフリースペースがあるな

ら、スマートフォンを設定しようと思ったら、札幌や岩見沢でなく、携帯会社が順次来ますという、具体的な取り組みが見えると皆もっと期待すると思います。FM がどれだけ私たちのために活用できるのか、その設備はそれぞれの家に用意なくていいのか。他の町では何もしなくても音声が流れてきて、本日はここでこういうことがあります。申請時期はいつですから皆さんお忘れではないですか、という放送を聞くと、これはいいなと思います。老々介護が大変な中で生活していらっしゃる方がいて、お一人様が多くなって、自分が死んだときどうしようかという中で、他の方々がフリースペースで温かさが見えてくる、感じ取れる建物であれば、そこが町民と役場の皆さんとの接点というか融合になる。役場職員を認める方は認めています。認められない方が、皆優秀なのにと、町のためにやっているのにどうしてこうなるんだろうかという声を持ってくるんです。食材も本当に良いものが捨てられるというのは、この時代にもったいない。それを町の販売するものにできないのかと思ってしまう。地産地消のものや、頑張って作っている農家さんのものを製品化するようにすればいい。駅前の拠点施設はいい場所だと思います。だからそういう細かいこと、どうでもないこと、どうでもいいことかもしれないけれど、お互いにこれはどうなんだろうか、本当はこういうものがほしいけどという風に話し合える場や雰囲気というのをこれから細かく作っていただけると、どんなに喜ぶ人がいるかと思いたすのでよろしくお願いします。

町長：色々ご提言がありました、農産物の直売所についても、農業者と町民を結びつける施設にしてはというご意見もいただいていますし、FM もスマートフォンの発展や高齢化が進んでいく中で、災害が起きた時にラジオを通じて皆さんに情報発信していく。温かさや丁寧さなど、色々なものが FM ラジオを通じて見えてくるのかなと思います。それと、町民の皆さんと施設の管理運営の中で、どのような結びつきをしていくか、私はより多くの町民の皆さんに交流施設に来ていただいて、栗山町の賑わいの拠点となるような、そして多くの方、町外の方にも注目していただけるような、そういう施設の展開を考えています。DIY 工房もそうです。そのためには我々だけではどうにもなりませんので、町民の皆さんのお力添えや、私どもからの情報発信よりも町民の皆さんからの情報発信の方がより効果的もありますので、色々なご提言があったことも踏まえ、いい施設にしていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

町民：第7時総合計画以外の事ですが、冒頭に町長から新型コロナウイルス感染症の話がありましたけれど、今後確実にあるであろう3回目のコロナワクチン接種についてお願いがあります。結論から申し上げますと65歳以上の高齢者は3回目コロナワクチン接種の予約方法を電話予約じゃなくて、事前に役場から接種場所・日時指定方式にしていきたい。すでに1回目のコロナワクチン接種の内容は検証済みで、改善計画を進めていると思いますが、高齢者はネット・スマートフォンでの予約は非常にハードルが高い。決して高齢者全員に家族がいて、ネットやスマートフォンが使える環境ではないと思います。電話予約は個人の希望する接種場所や日時を選択できますが、1回目のように電話が殺到して混乱するということもあります。西区は高齢者が6割以上いますが、その方からの話も聞くと、要は予約行動と言いますか、当事者の気持ちを考えてみていただきたい。まず接種券が手元に届いて、やはり当事者は安心するわけです。しかし予約の電話をすると繋がらない。そうすると不安になってくる。翌日再度また電話をすると繋がらない。今度は不安から不満になるわけです。これでは安心安全のまちづくりにはならないと思います。先

ほどネットの話も出てましたけれど、ワクチン接種の成功事例ということで、福島県の相馬市の相馬モデルというのがあると思います。ネットで検索するとすぐ出てきます。ぜひとも参考にさせていただいて、栗山に合わせた高齢者に優しい栗山モデルという形で実施していただきたいと思います。ぜひとも検討をよろしくお願いします。

総務課長：1回目、2回目の接種は、5月7日から受付を開始しまして、当初はインターネットの予約システムが無く、電話回線を5回線から10回線にかけたんですが、つながらないという苦情を春先に530件ほどいただきまして、皆さまにはご迷惑をおかけしたと反省しています。3回目接種に当たっては、日時・場所の指定方式は、隣町の由仁町はやっていますが、本町はできない状況になります。数が多いためです。インターネット予約はそのまま引き続き続けるのですが、電話は繋がらないことがないように、コールセンターの利用を検討しています。それによって多くの回線を利用できますので、春先にご予約いただいた時にご不便をおかけした、電話が繋がらないという事態は発生しない見込みと考えていますので、3回目接種は、電話はスムーズに繋がり、高齢者の方もお電話で予約が取れる体制を2月7日から接種が始まる予定ですが、1月の末から予約開始します。皆さんのご不便が無いように準備したいと思いますので、よろしくお願いします。

町民：1回、福島県の相馬モデルを見ていただければと思う。相馬市は市ですから、人口が理由にならないと思います。まずは1回見ていただいて、どういうことをやっているか。全国で成功事例サクセスがありますので、まず見ていただいて、それから計画をもう1回見直してほしい。

総務課長：福島県相馬市のモデルは確認させていただきます。今、私どもの方で接種体制をどのように考えているかと申しますと、2回目接種を終えた方が8カ月経過してから3回目接種が受けられる状態で、3回目接種がいつになるか、こちらは町の方でも誰がいつということを押さえています。2月7日から1週あたり150人ずつから始まる、という数字は分かっていますので、接種券も接種可能日を迎える2週間前から分割してお送りする予定になっています。今考えているのは、分割して接種券を発送して、春先は65歳以上4,600人の方へ一斉に接種券を発送して電話予約が殺到してしまいましたので、そういったことのないよう、接種可能日が近づいた方から、例えば300人、500人と送信する。3月をピークに接種券数は増えていく形になるのですが、電話予約で殺到して繋がることがないような接種券の発送方法ではなく、ウェブ予約と併せてコールセンターにより体制を敷いていますので、春先のような繋がらないというご不便はおかけすることがないと思います。ただ、教えていただきました福島県相馬市の成功例は参考にさせていただきたいと思います。

町民：先ほどから色々な話を聞いていると、やはり「くりふと」については見えてこない部分を僕自身も感じます。地域おこし協力隊全体も大丈夫かなと考えているところが、正直皆あります。皆色々な町から来ている若者でもありますし、栗山の事を知らないのか、どうやって人と接したらいいだろうか、どうやって町に溶け込んでいったらいいのかというのは、日々個々には努力しているので、すごく若いメンバーが来ているので、なるべく商店街でご飯食べよう、色々な人と会って話をしようとしている。商店街のクリスマスイベントの飾り付けも時間外で手伝おうとか。要は協力隊員になりたいくて来たのではなく、この町だったら面白い、何かできるんじゃないかと、将来的に魅力があるから集まってきているので、協力隊員も話す機会や色々な人たちと交流できる場を作っていただけたら

というのはすごく思います。それと1カ月半で約200人の方に名刺を配ったんですけれど、色々とお話を聞いてると、皆話したい、声を持って言いたいことがあって、色々な考えを持ってる。その場を最終的には作っていくことなのかなという風に思います。それと高校の問題もあると思うんですけど、大人の学校のようなものがあったら通うのにも思う。夜はネオン以外消えてしまうと寂しいので、教室に行ってもう1回学校に行って勉強したいとか、色々な人たちが学べるような場があつたらいいんだろうなと思っています。ラジオに関して最後に一言言いたいんですけど、ラジオができれば町はすごく明るくなります。誰もが笑顔でというのは、朝から笑って過ごす1日の始まりというのがキーワードになると思います。今日も役場に行ったんですけど、役場に入ると僕でも緊張するんです。視線を感じたり、明るさとか笑いがありません。皆真面目にパソコンに向かって仕事しているけれど、一日保たないんです。皆もっと笑って楽しく、私服で仕事してもいいんじゃないかと思う。皆スーツを着ていらっしゃいますけれど、構えてしまいます。だから栗山から自由な制服を着る役場という風に、どんどん中から変えていって、楽しさあふれる、役場に入った瞬間に音楽が流れているような雰囲気になつたらいいんじゃないか。

町民：FMに真剣に取り組んでくれるようで、朝ドラの天気予報のシーンのようなイメージでやってくださるんじゃないかと期待しています。それと、他の回でも仰っていましたが、地域おこし協力隊は外からの人たちがばかりで、地元の人たちは何で出て行かないのか。何のためのまちづくりなのか。地元の人達が頑張らなければ、再生するという気持ちを持たなければ、外からの人たちの誰ができるのか、もっと関わりなさいと思う。それは内側から、なかなか役場と同じ建物に入ると同じような感覚を受けてしまう。ですから、もう少しお互いに、イルミネーションをありがとうございます、お手伝いお願いします、というように何らかの形で関わるべきだ。そしてお金お金と言いますが、お金だけじゃないというのが私の意見です。お金以外の面で回してくれる人のおかげで、うちの店は残っています。食べ物を持ってきてくれたり言葉を持ってきてくれたり、色々な話や人生を教えてもらったり。その方たちのような、人がうちの店を残してくれました。細かいものを買いに来て、いろんな話をすることで、店は何とか残れるんです。潰れると言われていたうちがまだ残っているんです。それはお金だけでなく、店を回せるということだと思います。食は大変です。でもうちの畑で確かに格好は悪いけれど、頑張って作った野菜だから、栗山赤十字病院で使ってくれないか、施設でこれを使ってくれないかなど、栗山の給食で栗山のトマトを使うっていう試みをやってくださっていました。各教室に1つ炊飯器を置きたいという意見もありましたが、皆さんとてもいい意見を持っています。心の鍵なく行き来できるようになったら、栗山は本当にいい町になると思います。せっかく皆さん遅くまで何カ所も回って、私たちは1カ所ですが、そうして聞いた話をまとめてどうしようかということに、時間をかけてくれています。それと他の町でしたけれど、話を聞きに行ったときに、皆さん役場は怖いところじゃありませんから、いつでも来て下さいという言葉を見ました。今まで町では作物を作つたら、どうやってネーミングをするのか、どういう製品にするのか、どうやったらそういう基準に到達するのか、全部つながりを作りました。あとは皆さんが立ち上がってください。そうした時にちゃんと私たちの方では、受け入れる地をきちんと用意していますから安心して来て下さいという言葉を見ました。私はすごくうれしかったんです。栗山町は本当に人材が豊富です。前の教

育長が言っていたように、本当に素晴らしい人たちがいます。大人の学校は別に講師を呼ばなくても、町民が講師になったらもう立派な学校です。学歴を持ってる持っていないに関わらず、世界的に有名な人も皆栗山に住んでいます。そういう方たちの意見も入れてくれればどんなにいいかと思います。

20 : 57 終了